

新健康協会では、新しい健康法を伝える「健康新聞」を毎月発行し、人間のもつ治癒力や適応力をお伝えしています。肉体的、精神的なコトでお悩みの方も是非一読されてみてください。

# 健康新聞

発行所 新健康協会  
発行人

〒813-0001  
福岡市東区唐原6-7-1  
TEL:092-661-1531  
https://shinkenko.jp



次の御論文は明主様が、昭和二十五年に発表されたものであります。  
世界平和と心身共に健全な人間作りを目指す活動に御理解を頂ければ幸いです。

## 真理を説く

私の唱える説のほとんどは、どこかに今までと異なった意味が含まれている事を認めない訳にはゆくまい。というのは、今まで唱えられて来たあらゆる説は世に知れ渡り、今更新しく書く必要はないからである。今日何ほど巧妙に説いてみても、それは畢竟同じ説の焼き直しに過ぎない以上、徒勞以外の何物でもあるまい。

なるほど、古くから幾多の聖賢や偉人が輩出しては立派な教えや説を唱え、人類に裨益した功績はいかに高く評価しても差し支えないが、さらばと云って世界の進歩につれて、その有用価値が薄れてゆくのもまたやむを得ない現実であろう。とすれば今日以後の時代に役立つべき新しい説が生まれなければならぬ。言うまでもなく、現代人が切実に要望するところのものはこれである。  
なるほど既成宗教の教説なども、その当時の民族には極めて大きい価値があった事は勿論であり、その内容においても、その時の人

間の文化程度に適應したものに違ひなかつたであろうが、長い年月を経た今日、大衆にはアピールする力のありようはずがないのは、事実がよく物語っている。しかも大抵の宗教は中途において、幾人かの学者や賢哲がその時代に適應すべく改竄し、ゆがめられた点も相当あるにはある。このようなわけで現存せる宗教自体、現世を救うべき力の大半は失われてしまったといつてもよからう。しかも問題は古典や文献の難解な点である。宗教とさえいえば、一人の開祖の説でありながら各宗各派に分かれ、なかには宗教争いさえ絶えないものもあるのであるから、真に大衆に安心立命を与える力などは、木によって魚を求むるの感なくんばあらずである。

元来宗教の本質は真理の具現であつてみれば、真理を説く事によって、人間の精神的改造が何よりも重要事である。従つて他の事業、例えば社会事業のごときは派生的のものであるにかかわらず、それが宗教本来であるように思われて来たのは、全く宗教認識に欠陥があるのである。しからば真理とは何ぞやという事で、この徹底がなければならぬが、実をいうと真理ほど簡単で分かりやすいものはないのである。故に難解なややこしいもの程、実は真理に遠くかかっているとみるべきである。例えば真理とは東から太陽が出て西へ沈み、人間が空気を吸って飯を食い糞をたれ

るといふのと同じである。それをどう間違えたのか、昔から真理を非常にむずかしく考えられて来たが、それは理由がある。即ち真の見実者が現れなかつたからで、それというのも根本は夜の世界であつたからである。

私は四十幾才の時、重大使命を神から命ぜられるとともに、何人も到達し得なかつた見真実の境地にまで上つたのである。勿論その境地にあつて一切を眺める時、現代文化のあまりに誤謬の多い事に気がつく。従つて一切を明々白々にさらけ出し、全人類の一大啓蒙こそ救いの根本であらねばならない。この意味において私の唱える事も行う事も、今までのそれとはあまりに異なつており、万事型破りのなものばかりである。みらるる通り、いかに深遠微妙なる真理といえども、いとも平易簡単に説明する。いかなる学者にも非学者にも理解されうるように説くのである。しかしここに困る事は、私が説くところの真理は、長い間非真理を真理と錯覚し堅く守られて来た人達の眼には、非真理に誤解されやすいことであるが、これも過渡期の一時的現象として、またやむを得ないところであろう。しかし真理はどこまでも真理である以上、時の進むに従つて漸次理解されるのは当然で、それが真理の真理たる所以でもある。何よりも本教教線が、前例をみない程の発展ぶりが、それをよく物語っているのである。

### 浄霊体験記

- 乳ガンが消えた!素晴らしい奇跡が...
- 胸のシコリ 完全になくなる
- 長年のシッシン浄霊できれいに...
- 足の腫れが引いた...浄霊の有難さを実感

浄霊によって真の健康体となり、運命が向上し、幸せになられた方々の体験でございます。

### 乳ガンが消えた！

### 素晴らしい奇跡が…

アメリカ・ロサンゼルス支部  
パトリシア・ヴィノラス (53)



私は一年に一回、定期検診を受けていました。そして、二〇二〇年十二月三十日、この日も定期検診として乳ガン検診である、マンモグラフィ検査を受けました。すると、新年を迎えた一月一日、医者より手紙が届き、「左脇の下に疑いがあり、追加の画像診断が必要だ」ということを言われました。二月十七日、超音波検診に行くと、直径約二センチの楕円形の腫瘍があるという事でした。私は医者に勧められるまま、三月十九日にバイオプシー検査を受け、二十三日に医者から電話で、「ステージ3の濾胞性リンパ腫が発見されたので専門医に診てもらわなければならない」と言われました。

私が最初に思ったことは、手術や抗がん剤治療などの医療は何も受けたくないということでした。そして「神様、どうかお助け下さい。正しい道に導いて下さい。正しい人に会わせて下さい」と心の底から祈りました。それまでは何の症状もなかったのに、検査を受けた直後から体の左半身が痛むようになりました。

三月二十七日、カイロプラクティックに行き、すでに顔見知りになっていた受付の女性にガンの診断を受けたことを話しました。すると彼女は、「ここに電話してみてください。浄霊というヒーリングをする所らしいんだけど、この会員が私にも教えてくれたの。私はまだ行ってないけど、あなたは行ってみるべきよ」とロサンゼルス支部の電話番号をくれました。

私は翌日支部を訪ね、責任者の人に色々説明を聞き、初めて浄霊をいただきました。すると体の調子が良くなったのを感じたので、その後も浄霊を続けてみようと思いい、その日からほぼ毎日浄霊をいただきに行きました。

浄霊をいただいている期間にも、めまいや左半身の痛み、呼吸困難、アレルギー反応などの症状がいろいろ起きてきました。それらの症状が健康になるための「浄化作用」であると分かり、感謝の気持ちとともに浄化作用を受け入れ、しっかりと浄霊をいただきながら乗り越えていけるようになりました。そして自分でも浄霊をいただけるようにと思いい、四月二十六日に入会しました。

四月二十八日、以前から予約を入れていたガン専門医に会いに行き、PETスキャン（放射断層撮影法）を受けるように言われ、検査を受けた結果、左頸部と左胸、左骨盤下にリンパ腫が増えているのが見つかりました。この

時、医者は二つの選択肢を提示しました。それはまず一カ月間の抗体リツキシマブ治療（ガン細胞だけを標的にするリンパ腫などの治療）をすること。もう一つは何もせず様子を見ながら三カ月毎に検査に通うことでした。私は迷わず、後者の「何もせずに様子を見たい」と医者に告げました。おかげで家族もこれに賛成してくれました。

私は夫の了解を得て、その後は支部で二回、家でも自分で浄霊をいただきました。支部で色々話を聞くにつれ、浄霊がどのように作用するのかということが出てきました。浄霊は私がこの状況を乗り越える為に必要だった自信と安らぎを与えてくれました。私は病院に行く時、いつも恐怖と不安でいっぱいでしたが、支部はその反対で、行く度に気持ちが悪くなり、明るくなりました。夫も私の変化を見て、私が出るだけ浄霊をいただけるようにと、三人の子供たちと一緒にいろいろと協力してくれました。

前回の検査から三カ月後の八月二十五日、触診だけの予定で予約が入っていたのでガン専門医に会いに行きました。医者は私の左脇の下を触診して首を傾げました。「リンパ種が見つからない」と不思議そうな顔をして骨盤の下も検査をし、「ここもリンパ腫がなくなっている」と困惑した顔つきで「あなたのガンがどうなりましたのか、次回のマンモグラフィ検査の結果が待ちきれない」と言いました。それを聞いた私は安堵とともに感謝の気持ちで満たされました。浄霊と浄化作用により、こんなに嬉しい結果をいただけるなんて、感謝しても感謝しきれません。夫と三人の子供たちの無条件な愛と

ともに、浄霊は私に希望と力、そして真の恵みを与えて下さいました。世界中の人が私のように明主様に救われやすことを心から祈ります。  
(アメリカ・ロサンゼルス)

### 胸のシコリ 完全になくなる

ネパール・カランキ出張所  
チュリ・カンチ (53)



今から約八年前、私の右乳房にシコリができました。段々と化膿して膿がたくさん出てきたので、病院に行きました。医師からは「これは手術した方がいい」と言われたので、手術をしました。これで良くなったと安心していましたが、その後、今度は左乳房にシコリができてしまいました。この時も病院に行き、診察を受けると医師から「まずは薬を服用してシコリの様子をみましょう。シコリが減らなければ手術をしないといけません」と言われました。私は、「右の胸を手術しても良くなり、その上、左の胸まで手術をしないといけません。どうしたら良いのだろう」と不安になりました。その当時、私の妹は浄霊をいただきに行っていたので、私の様子を聞いて

、「一緒に出張所に行って浄霊をいただいてもいいですか？」と勧められました。私も、手術しなくて済むのであれば試してみたいと思いい、出張所に行くことにしました。

私はその日から毎日のように出張所に行き浄霊をいただきました。すると今までにないような爽快感を受けたので、その後も浄霊を続けました。途中、膿が出ることもあったのですが、膿が出る度に胸のシコリが減っていき、楽になっていきました。本当に浄霊は素晴らしいと実感しました。

おかげ様で三年後にはシコリもなくなり、手術の必要もなくなりました。とても嬉しく、心から明主様に感謝申し上げます。

それから四年後に入会しました。シコリは完全になくなり、再発もしていません。これからもこの素晴らしい浄霊のことを一人でも多くの方に伝えたいです。

明主様、誠に有難うございました。  
(ネパール・カトマンズ市)

## 浄霊

浄霊は大自然のエネルギーであり、病気やあらゆる問題で苦しんでいる人、悩んでいる人を救う方法です。

浄霊によって魂は清浄化され、肉体が健康になっていきます。

まずは試されてみてはいかがでしょうか。

## 長年のシツシン 浄霊できれいに…

豊中出張所  
宮崎那都子 (32)



私は長年、手にシツシンが出ていたが、浄霊をいただくことでシツシンが出なくなりましたので、皆様にお伝えいたします。

私が小学生の時のことです。両手の指先に水泡のようなシツシンが出るようになりまし。シツシンは痒く、どうしても掻いてしまうので、次第に指の皮がむけて血膿が出るようになりまし。そして、それが良くなるうとして新しい皮膚が出来るのですが、それがまた痒く、掻いてしまうためまた血膿が出ては皮膚が出来ようとする…という状態を何度も繰り返しました。爪は波打ったようにガタガタになりました。この状態を見た祖母(会員)は、「シツシンが出ると体内の汚いものも出ていくから良いのよ、内攻すると大変だからね」と、いつも声をかけてくれていました。

おかげ様で、浄霊をいただくことでシツシンは引いていき、中学、高校の時には手は綺麗になりました。しか

し、今度は頭痛がはまりました。その後、十九歳の時に両手の指先に小学生の時と同じシツシンが出るようであった頭痛等がなく、シツシンと関係しているように思いました。

この時初めて、祖母に言われた「内攻するより湿疹で出ている方が良い」という意味がわかりました。頭痛や首肩の凝りの元(毒素)となるものが、シツシンとなって外に出ることで楽になる、これが浄化作用なのだと思います。

その後、二十五歳の時から新健康協会で働いていますが、その間も夏になつたら指先から手の甲、手の平と順番に皮がむけ、血膿がたくさん出たり、冬になるとアカギレで指先が腫れて曲げることが困難になったりした時もありましたが、日々浄霊をいただく環境でしたので、生活に支障なく過ごすことが出来ました。

こうして長年続いたシツシンでしたが、二十九歳頃から徐々に減っていきまし。その後、腎臓が痛んだり、三十歳を過ぎた頃からは喘息にもなりまし。そして、手もシツシンが出ていたことが分からない程きれいになり、爪もきれいになりました。これも明主様のおかげであり、浄霊のおかげです。祖母の代から浄霊に御縁があったおかげで、こうして浄霊をいただくことが出来、それがどれほど有難く幸せなことであるかを感じています。日々、元気でいられることがとても有難いです。

今後、一人でも多くの方に浄霊をお伝えしていきたいと思っています。明主様、誠に有難うございました。(大阪府豊中市)

## 足の腫れが引いた… 浄霊の有難さを実感

荒尾支部  
林節子 (86)



私は今まで、心臓や腎臓、肝臓等、内臓は全部と言っていたいほど、ありとあらゆる病気になるりましたが、その度に浄霊で救われてきました。若い頃に命を失つてもおかしくなかった私が、おかげ様でこの歳まで長生きさせていただいています。

昨年の二月のある朝、目覚めると腰から臀部、足にかけて激痛があり、少し動かすだけでも痛みが走る状態でした。寝たまま全く動けなくなっていました。なんとか支部に電話をし、御守護の御願いをしました。そして支部の人に来てもらって、浄霊をいただきまし。おかげ様で痛みが少し楽になりましたので、それから毎日家に来てもらって浄霊をいただきました。また、近くに住んでいる娘にも来てもらい、浄霊をいただいたり、家事をしてもらったりしました。四、五日経った頃には、段々と痛みも引いていき、少しずつ座れるようになり、隣の部屋まで歩いて行けるようになりました。こ

の時、左足が足の甲までパンパンに腫れていたため、友人が心配して、一緒に病院へ行くことにしました。

検査の結果、骨折はしておらず、足の腫れの原因も分からないということ。湿布だけされて、その上に包帯を巻いて固定して帰ってきました。そして翌日も病院に行くことになり、友人が車で迎えにきてくれました。しかし、その日の帰宅後、私は体調が悪くなってしまいました。翌朝、迎えに来てくれた友人はその様子を見て驚き、「林さん、昨日病院に行く前までは、浄霊でどんどん良くなっていったのに、今日はどうしちゃったの？今から病院に連れて行く予定だったけど、今日は代わりに浄霊に連れて行くよ！」と言って、支部まで連れて行ってくださいました(友人は未会員ですが、三十年来の付き合いで、今まで私が浄霊で元気になってきているのを見ていました)。

支部に着いた時は歩くことが出来ませんでした。支えてもらってなんとか歩けるようになりました。悪寒がしていたのですが、それも治まり、気分も良くなりました。その上、浄霊をいただいている間に気持ち良く眠り始めたので、友人も「気持ち良さそうね、私も浄霊を体験してみたい」と言って浄霊をいただきました。このことがきっかけで友人も「浄霊は良いね」と分かってくれて、他の友人たちにも「林さんは浄霊で楽になったよ！」と話してくれたので、支部にきました。友人たちに浄霊の有難さを分かってもらえる良い機会をいただいたと思います。

おかげ様で、その後も毎日浄霊をいただき、徐々に足の腫れも引いていき、痛みも軽くなっていきました。最

初は数歩歩くのがやっとでしたが、段々と手押し車を使って歩けるようになり、その次は杖になり、最後は杖なしで歩けるようになりました。支部に行けるようになってからも、最初は二階まで上がれませんでした。そのうち階段も上がれるようになりました。おかげ様で、皆に助けられながら元気にになりました。明主様を信仰していることがとても有難いです。浄霊の有難さが分かります。

この先も明主様を信じて、先を見て進んでいきたいと思っています。誠に有難うございました。(熊本県荒尾市)

## 浄化作用ってどういうこと?

人間には体内の毒素を排除して健康を促進しようとする働きがあります。例えば、カゼの場合、蓄積してきた不純物や体外から入ってきた毒素を浄化するために熱や痛みが出ます。そして、その結果ハナやタンなどが出て体の中が掃除され、霊・体共に清浄化されます。その毒素排除の過程を「浄化作用」と言います。ですから浄化作用は、体の不調和を調和させる大切な清掃作用でもあるのです。

芸術を楽しむ理由

# 美の殿堂へ

2 vol.

聖地に美の世界をつくる  
新健康協会が伝えたい  
芸術鑑賞のススメと  
楽しみ方について



「晴明会館」は、教祖・明主様（岡田茂吉師）を信仰する新健康協会の聖地に「美の世界」を実現する信念のもと、1987年（昭和62年）に建設されました。

当館の魅力は、宗教画家「杉本哲郎」による「世界十大宗教壁画」です。キリスト教、イスラム教、仏教など宗教発祥の地ヒマラヤを起源として世界に広まった十大宗教をテーマとした宗教壁画の連作。

釈迦、キリスト、マホメットの三大聖者をはじめ、道教の老子、ヒンドゥー教のブラフマー・ヴィシヌ・シヴァ、ユダヤ教のモーゼ、神道の天の岩戸、仏教の釈尊、イスラム教のメッカなどをテーマに、芸術と宗教の一体化を追求しつづけた壮絶な孤高の画家、杉本哲郎による大作が当館の蔵品となっています。

「世界の信仰と思想はひとつになる万教帰一の実現と争いのない幸福な世界平和」という教祖の思いを祈念いたしまして常設展示しております。

手に入れたのは  
健康な心と  
健康な体

## 美の世界

美によって人間の情操を高め、生活を豊かにし、人生を楽しく意義あるものにする事ができます。

### とみたけいせん 富田溪仙

#### 《天女》

大正から昭和のはじめにかけて活躍した日本画家、富田溪仙。一八七九（明治十二）年、黒田藩御用達だった「博多素麵」を製造販売する家に生まれた溪仙は、家業を手伝いながらも暇さえあれば絵を描いて遊んでいるような子どもだったそうです。狩野派の手ほどきを受けたこともあったようですが、維新後の困窮で継続できる状況ではなく、十八歳で画家を目指すために家を出て京都に上りました。「都会の絵には自由があるように思われた」ことが出京の動機であったと語る溪仙が師事したのは四条派の流れを汲む都路華香。絵を見て廻り、魅力を感じた華香を突然訪問して住み込みの弟子になったという型破りなスタートでした。

ちが描かれています。西方を思わせる凛々しい顔立ちですが、浮かび上がる姿はあくまでも柔らかく、それぞれの線が作りだすリズムが心地よく伝わってきます。

実は、この天女と同じポーズ、構図の飛天が描かれた屏風があり、本作品はその下絵として描かれたものではないかと考えられます。《幻化》と題されたその屏風は、この天女たちを含めた「飛行天」に加え、「誕生獅子吼」「如意輪観音」「供養」「薬師」「五大虚空蔵」「聖観自在」「大威徳明王」の合わせて八点が六曲一双に貼り交ぜられたもので、一九二五（大正十四）年再興十二回院展に出品されました。溪仙四十六歳の作品です。

こうした仏教的な題材も手がけ、古画の模写にもよく励んだ溪仙ですが、仏教に帰依した訳ではなく、絵にとつて何よりも大切な「心」の働きを宗教性から学ぼうとしていたことの表れだと思われれます。それは模索期の雑記帳に「芸術ト宗教ハ同一基因ナリ」と記されていることから伺い知れるのです。

溪仙によると「幻」は見えないもの、「化」は形を持ったもの、そして見えない「幻」は「第一義をなすもの」。したがって「幻化」とは、目には見えない最も重要なものを形にしたもの、ということになります。こうしたことを考え合わせると、本

作は形を通して本質的な何かに触れること、まさしく絵画が行うべきことに正面から取り組んだ軌跡を示していると言えるのです。

解説 松田愛子



### 晴明会館

「背景に九州」後期展  
期間…1月7日(金)～5月18日(水)

※晴明会館お問い合わせ ☎092(661)1535

健康新聞についてのお問い合わせは  
(092)661-1531まで